

発行日 2022年04月25日

改訂日 2025年08月14日

改訂番号 4

1. 化学品及び会社情報

製品名 ZE 700
製品コード 0900314
安全データシート 番号 IN790305G
登録番号 情報なし

安全データシートの供給者の詳細

供給者
会社名: 富士フイルム株式会社
住所: 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3
担当部門: 富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社
技術本部
電話番号: 03-6419-0350
FAX番号: 03-6419-9893
緊急連絡電話番号 (公財)日本中毒情報センター中毒110番
(事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)
一般専用電話(情報料無料):
大阪 072-727-2499(24時間)
つくば 029-852-9999(9時～21時)

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 UV硬化型インク用プライマー

使用上の制限 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

引火性液体および蒸気	区分 3
皮膚感作性	区分 1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2

ラベル要素



注意喚起語 警告
危険有害性情報
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
眠気またはめまいの恐れ
長期継続的影響によって水生生物に毒性
引火性液体および蒸気

注意書き
安全対策

- ・熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙
- ・ミスト(霧)/蒸気/スプレー(噴霧)の吸入を避けて下さい
- ・環境への放出を避けること。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

応急措置

- ・皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること
- 保管

・換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと

廃棄

・内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること

他の危険有害性

セクション8に記載されている職業暴露限界を超える成分溶媒蒸気への暴露は、粘膜や呼吸器系の炎症、腎臓、肝臓、中枢神経系への悪影響などの健康への悪影響をもたらす可能性があります。症状と徴候には、頭痛、めまい、倦怠感、筋力低下、眠気、そして極端な場合には意識の喪失が含まれます。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学品の名称	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
プロピレングリコールモノメチルエーテル	107-98-2	90 -100%	既存	(2)-404.(7)-97	既存	(2)-404.(7)-97
二アクリル酸ヘキサメチレン	13048-33-4	5.0%	既存	(2)-1007.(2)-958	既存	(2)-1007.(2)-958

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

下表は、該当すると考えられるカット オフ 値を超える成分を示す。

化学品の名称	CAS番号	金属、CN、F、その他	変換係数	含有率 %	区分	管理番号
二アクリル酸ヘキサメチレン	13048-33-4			5.0	第2種指定化学物質	306

安衛法

通知対象物質

安衛法通知対象物質：労働安全衛生法第57条の2

化学品の名称	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %
プロピレングリコールモノメチルエーテル	107-98-2	通知対象物質	9-496	90 - 100
二アクリル酸ヘキサメチレン	13048-33-4	通知対象物質		5.0

表示対象物質

安衛法表示対象物質：労働安全衛生法第57条

化学品の名称	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %
プロピレングリコールモノメチルエーテル	107-98-2	表示対象物質	9-496	90 - 100
二アクリル酸ヘキサメチレン	13048-33-4	表示対象物質		5.0

毒物及び劇物取締法

該当しない

4. 応急措置

一般的なアドバイス

治療を行う医師にこの安全データシートを示すこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移すこと。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服及び靴を脱ぎ、直ちに石けん(鹼)と多量の水で洗うこと。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。皮膚の炎症又はアレルギー性反応が認められる場合には、医師の診察を受けること。

眼に入った場合

直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。受傷部をこすらないこと。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。水で口をすすぎ、その後多量の水を飲むこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

掻痒感。発疹。じんま疹。長期にわたり接触すると発赤及び刺激を引き起こすおそれがある。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

すべての着火源を排除すること。医療者が物質の関与を認識していることを確認し、彼ら自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。

医師に対する特別な注意事項 敏感な個人に感作を引き起こすおそれがある。症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤、泡、二酸化炭素、水霧。
使ってはならない消火剤	高圧水で漏出物を散乱させないこと。
特有の危険有害性	発火のリスク。製品及び空容器を熱源及び着火源から遠ざけること。火災の場合には、水噴霧でタンクを冷却すること。燃焼残留物や汚染された消火水は現地の規制に従って廃棄しなければならない。製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。
特有の消火方法	消火作業は、可能な限り風上から行う。漏出した物質や消火用水等が、河川等に排出されないように配慮する。関係者以外は速やかに安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	人員を安全な区域に退避させること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。全ての着火源を排除すること(近接区域は喫煙とし、裸火、火花又は火炎を排除すること)。フラッシュバックに注意すること。静電気に対する予防措置を講ずること。製品を取り扱うときは使用する全ての器材を接地すること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。
封じ込め方法および機材	周辺の炎をすべて消火する。 大量の漏出：リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。可能な場合は漏出物をせき止める。プラスチックのシートで覆い、拡散を防止しなければならない。パーミキュライト、砂、土などの不燃性物質を用いて製品を容器に吸収し、後で廃棄する。製品回収後、その付近を水で洗い流す。水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。 少量の漏出：吸収材(例：布、フリース)で拭き取る。残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。
浄化方法及び機材	絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。廃棄物処理については項目13を参照。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	その区域を換気すること。項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。取り扱った後、手を洗うこと。
安全取扱注意事項	個人用保護具を使用すること。蒸気又はミストを吸い込まないようにすること。熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気の放電、火災又は爆発を防止するために、この物質を移動するときは接地及びアース接続を使用すること。局所排気換気装置を併用すること。火花を発生させない工具及び防爆型の機器を使用すること。包装容器のラベルに記載の指示に従って使用すること。産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。その他、消防法、労働安全衛生法に定めるところに従う。
混触禁止物質及び混合物に関する取扱注意事項	詳細については項目10を参照。

動的粘度		情報なし
水への溶解度		水と不混和
溶解度		情報なし
n-オクタノール／水分配係数(log値)		情報なし
蒸気圧		情報なし
相対ガス密度		情報なし
相対密度	0.921	情報なし
粒子特性		情報なし
粒径		情報なし
粒径分布		情報なし

その他の情報

爆発性	情報なし
酸化特性	情報なし

10: 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	通常のプロセスではない。
避けるべき条件	熱、炎及び火花。直射日光を避ける。アルカリ、強い酸や熱を避ける。酸化剤との接触を避ける。過酸化物との接触。
混触危険物質	提供された情報に基づき知見なし。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、炭酸ガス。
爆発データ	
静電放電に対する感度	該当する。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

可能性のある暴露経路に関する情報

吸入	情報なし
経口	情報なし
皮膚接触	情報なし
眼接触	情報なし

物理的、化学的、及び毒性学的特性に関する症状

情報なし

短期的及び長期的ばく露による直後の影響と遅発性の影響及び慢性的影響

急性毒性(経口)	情報なし
急性毒性(経皮)	情報なし
急性毒性 - 吸入	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	

化学品の名称	皮膚腐食性／刺激性	毒性情報
二アクリル酸ヘキサメチレン	区分 2	情報なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

化学品の名称	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	毒性情報
二アクリル酸ヘキサメチレン	区分 2	情報なし

呼吸器感作性	情報なし
--------	------

皮膚感作性

化学品の名称	皮膚感作性	ACGIH	日本産業衛生学会	毒性情報
二アクリル酸ヘキサメチレン	区分 1	情報なし	Group 2 skin sensitizer	情報なし

発がん性 情報なし

生殖細胞変異原性 情報なし

生殖毒性 情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

化学品の名称	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	毒性情報
プロピレングリコールモノメチルエーテル	区分 3	情報なし

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 情報なし

誤えん有害性 情報なし

毒性の数値尺度
情報なし**12. 環境影響情報****生態毒性**

化学品の名称	水生環境有害性 短期(急性)	水生環境有害性 長期(慢性)	毒性情報
二アクリル酸ヘキサメチレン	情報なし	区分 1	情報なし

残留性・分解性

残留性・分解性 情報なし

生体蓄積性

生体蓄積性 情報なし

土壌中の移動性

土壌中の移動性 情報なし

オゾン層への有害性

情報なし

他の有害影響

他の有害影響 情報なし

13. 廃棄上の注意**残余廃棄物**

自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上、特別管理産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて処理を委託する。本製品を未使用のまま廃棄する場合は(または使用途中で容器内の処理薬品を廃棄する場合)、特別管理産業廃棄物に該当する。処理を委託する場合は、特別管理産業廃棄物処分業の許可を受けた業者へ産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて依頼する。廃棄時に該当する法規【廃棄物処理法：特別管理産業廃棄物(廃油)、水質汚濁防止法：排水基準、下水道法：下水の排除の制限】。

汚染容器及び包装

空の容器は火災および爆発危険有害性を有する。容器を切断、穴開けまたは溶接しないこと。

14. 輸送上の注意

国連番号	UN1210
品名(国連輸送名)	PRINTING INK RELATED MATERIAL, flammable
危険有害性クラス	3
副次有害性クラス	該当しない
容器等級	III
応急措置指針番号	129

IMDG	
海洋汚染物質:	該当する
MARPOL 73/78付属書II及びIBCコード	該当しない
によるばら積み輸送される液体物質	
EmS番号:	F-E, S-D
梱包指示:	P001
IATA	
旅客および貨物航空機:	355 Max 60 L
貨物航空機のみ:	366 Max 220 L

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	該当しない
国内規制がある場合の規制情報	項目15を参照。消防法、毒劇法、船舶安全法、航空法に該当する場合はそれぞれの規定に従う

15. 適用法令

国内規制

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)
該当する 詳細情報については項目3を参照
労働安全衛生法

危険物

労働安全衛生法施行令別表第1(第6条、第9条の3関係)

引火性の物

表示対象物質

安衛法表示対象物質: 労働安全衛生法第57条

通知対象物質

安衛法通知対象物質: 労働安全衛生法第57条の2

その他

ニアクリル酸ヘキサメチレン: 皮膚等障害化学物質等(労働安全衛生規則第594条の2)

プロピレングリコールモノメチルエーテル: 厚生労働大臣が定める物及び厚生労働大臣が定める濃度の基準 (労働安全衛生規則第577条の2第2項、2025年10月1日以降)

毒物及び劇物取締法

該当しない

消防法:

引火性液体、第4類、第2石油類、非水溶性液体、危険等級 III、1000リットル

船舶安全法

引火性液体類-危険物船舶運送及び貯蔵規則第3条および別表第1

航空法

引火性液体-航空法及び航空法施行規則第194条および別表第1

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

海洋汚染物質

16. その他の情報

発行日	2022年04月25日
改訂日	2025年08月14日

その他の情報

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の含有量が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

凡例 8: ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
*	皮膚兆候	+	感作性物質

本安全データシートの編集に使用した主要参考文献およびデータ源

日本産業衛生学会

労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度

ACGIH - American Conference of Governmental Industrial Hygienists (米国産業衛生専門家会議)

IARC - 国際がん研究機関

物質及び混合物の分類、表示及び包装(CLP)に関する規則(EC 1272/2008)

富士フイルム株式会社(安全性評価センター)の混合物の評価データ

免責事項

この安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に準拠している。この安全データシートに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。本SDSの作成には製造会社のFUJIFILM Speciality Ink Systems Limited社のSDSを参考情報として用いています。尚、弊社ホームページ(<https://www.fujifilm.com/jp/ja/sds-and-ais>)に最新版の安全データシートを掲載しています。

安全データシート のおわり